

平成29年4月20日

第30回「京都美術文化賞」 受賞者の決定と贈呈式開催について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 布垣 豊）では、財団の顕彰事業である第30回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第30回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

箱崎 睦昌（はこざき むつまさ・70歳）日本画

日本画の伝統を踏まえた「清水寺平成縁起絵巻」の制作など近年の活動を評価。

山部 泰司（やまべ やすし・58歳）洋画

個展やグループ展を中心に、実験的な制作活動を行っている。

やなぎみわ 現代美術

写真、舞台演劇などジャンルにとらわれない創作活動を行っており、国内外で活躍している。

2. 贈呈式日時 平成29年5月29日（月）午後2時

3. 会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿 京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

4. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。昭和63年5月の第1回に始まり、今回で第30回目の贈呈となりました。

（1）選考委員（敬称略）

梅原 猛（哲学者）
太田 垣 實（美術評論家）
潮江 宏 三（京都市美術館館長）
新宮 晋（彫刻家）
辻 惟 雄（美術史家）
樂吉左衛門（陶芸家）

(2) 受賞記念展の開催

平成30年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

・受賞者総数 90名(今回を含む)

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)

彫刻 12名

工芸 32名(染色11名 陶芸15名 漆芸3名 截金1名 人形1名
ガラス造形1名)

その他 11名(写真2名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術3名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞の秋野 不矩氏は平成11年度文化勲章受章

第7回受賞の黒崎 彰氏は平成20年瑞宝中綬章受章

第9回受賞の岩倉 寿氏は平成18年芸術院会員に選出

第9回受賞の木村 光佑氏は平成24年瑞宝中綬章受章

第13回受賞の江里 佐代子氏は平成14年史上最年少で人間国宝に認定

第19回受賞の宮瀬 富之氏は平成21年日本芸術院賞を受賞

第24回受賞の森村 泰昌氏は平成23年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激になっています。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価いただいています。

5. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(昭和61年11月)を記念して、昭和62年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。平成23年4月1日より公益財団法人に移行しました。

以上

☆本件に関するお問い合わせは、京都中央信用金庫 広報部

(TEL075-223-8385 FAX075-223-2563) までお願い申し上げます。

第30回京都美術文化賞受賞者略歴 (敬称略)

箱崎 睦昌 (はこざき むつまさ) 日本画 70歳

1946年大分県生まれ。'72年京都市立芸術大学日本画専攻科修了。'84年「横の会」や'98年「NEXT」の結成に参加し活動する一方、'83年八栗寺多宝塔の荘厳彩色や'03年京都迎賓館の会議室綴織壁面の原画制作などにも携わっている。'15年に奉納された「清水寺平成縁起絵巻」は清水寺の由来や文化、歴史を絵巻固有の古典的表現技法を駆使して完成させたもので、大きく注目された。嵯峨美術大学客員教授。

展覧会：'74年久米田寺大師堂天井画展(京都市美術館)、'84年横の会第1回展(～'93、京都市美術館他)、'96年信貴山玉蔵院奉納記念「箱崎睦昌襖絵展」(大丸/京都他)、'98年第1回NEXT展(～'07、高島屋/京都他)、'15年「清水寺平成縁起絵巻展」(清水寺成就院/京都)、'16年京都現代作家展V o 1.7「仏観想」(堂本印象美術館/京都)など多数。

受賞：'89年京都市芸術新人賞、'90年第1回京都新聞日本画賞展優秀賞、現代の絵画展「両洋の眼」推奨(同'91年)、'95年タカシマヤ文化基金新鋭作家奨励賞、'03年京都府文化賞功労賞など。

代表作：「那智瀑声」('86年 京都国立近代美術館蔵)、「信貴山玉蔵院襖絵」('96年 玉蔵院蔵)、「佐渡」('13年 茨城県近代美術館蔵)、「清水寺平成縁起絵巻」('15年 清水寺蔵)など。

山部 泰司 (やまべ やすし) 洋画 58歳

1958年岡山県生まれ。'83年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。'80年代「関西ニューウェーブ」と呼ばれた様々なグループ展に企画と出品でかかわる。以降、様々な様式による絵画制作を展開。現在はダ・ヴィンチの嵐や洪水のデッサン、中国の山水画から着想を得てそれらの対立構造を止揚した世界観による風景画を制作している。華頂短期大学教授。

展覧会：'82年「スピリチュアル・ポップ」(大阪府立現代美術センター)、「フジヤマゲイシャ」(京都市立芸術大学ギャラリー他)、'86年「アート・ナウ'86」(兵庫県立近代美術館)、'88年「花の表現」(埼玉県立近代美術館)、「第24回今日の作家 多極の動態展」(横浜市民ギャラリー/神奈川)、'90年「アート・ナウ関西の80年代展」(兵庫県立近代美術館)、'94年「日本の現代美術の断面展」(ヒュンダイ・アートギャラリー/韓国)、'95年「第2回VOCA展」(上野の森美術館/東京)、'08年「山部泰司展～変容する絵画～」(奈義町現代美術館/岡山)、'16年「山部泰司展～ここからはじまる風景画～」(奈義町現代美術館/岡山)など多数。

受賞：'89年「第1回次代を担う作家展」優秀賞など。

代表作：「咲く力」('87年)、「横断流水図」('14年)、「岩と松 平遠図」('15年)など。

やなぎみわ 現代美術

1991年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。'90年代半ばより、若い女性をモチーフにCGや特殊メイクを駆使した写真作品を発表。「エレベーターガール」「マイ・グランドマザーズ」「フェアリーテール」シリーズ等の個展を国内外で多数開催。'09年第53回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表。'11年から本格的に演劇プロジェクトを始動。'16年野外劇「日輪の翼」を国内4ヶ所で上演、今夏京都公演予定。京都造形芸術大学教授。

展覧会：'02年「Granddaughters」(資生堂ギャラリー/東京)、'04年「やなぎみわ：ドイツ銀行コレクション」(グッゲンハイム美術館/ドイツ)、「少女地獄極楽老女」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館/香川)、'05年「無垢な老女と無慈悲な少女の信じられない物語」(原美術館/東京)、「マダム・コメット」(大原美術館有隣荘/岡山)、'09年「My Grandmothers」(東京都写真美術館)、「婆々娘々」(国立国際美術館/大阪)など多数。

受賞：'99年VOCA賞、京都市芸術新人賞、東川賞新人作家賞、'00年咲くやこの花賞、'01年京都府文化奨励賞、'04年兵庫県芸術奨励賞、'06年タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞、'07年神戸市文化奨励賞、'15年京都府文化賞功労賞など。

代表作：美術作品「Elevator Girl」('93年～)、「My Grandmothers」('00年～)、「フェアリーテール」('04年～)、演劇作品「1924」三部作('11年～'12年)、「日輪の翼」('16年～)など。

京都美術文化賞 受賞者（敬称略）

- 第1回(昭和63年5月) ※秋野不矩(日本画) ※小牧源太郎(洋画) 坪井明日香(陶芸)
第2回(平成元年5月) ※麻田 浩(洋画) 小清水 漸(彫刻) ※伊砂利彦(染色)
第3回(平成2年5月) ※中野弘彦(日本画) ※三尾公三(洋画) ※藤平 伸(陶芸)
第4回(平成3年5月) 竹内浩一(日本画) 井田 彪(彫刻) 樂 吉左衛門(陶芸)
第5回(平成4年5月) ※吉原英雄(版画) ※野崎一良(彫刻) ※南 祥輝(漆芸)
第6回(平成5年5月) 中野嘉之(日本画) 内田晴之(彫刻) 面屋庄甫(人形)
第7回(平成6年5月) 黒崎 彰(版画) ※鈴木 治(陶芸) ※来野月乙(染色)
第8回(平成7年5月) ※下村良之介(日本画) 番浦有爾(彫刻) 深見陶冶(陶芸)
第9回(平成8年5月) 岩倉 寿(日本画) 木村光佑(版画) 富樫 実(彫刻)
第10回(平成9年5月) 下保 昭(日本画) 齋藤真成(洋画) ※西嶋武司(染色)
第11回(平成10年5月) ※芝田 耕(洋画) ※山田 光(陶芸) 澁谷和子(染色)
第12回(平成11年5月) ※小嶋悠司(日本画) 林 康夫(陶芸) 服部峻昇(漆芸)
第13回(平成12年5月) ※堂本元次(日本画) ※井上隆雄(写真) ※江里佐代子(截金)
第14回(平成13年5月) ※渡辺恂三(洋画) 木代喜司(彫刻) 福本繁樹(染色)
第15回(平成14年5月) ※岩本和夫(日本画) 小林陸一郎(彫刻) ※栗木達介(陶芸)
第16回(平成15年5月) 森本 勇(洋画) 竹内三雄(彫刻) 河田孝郎(染色)
第17回(平成16年6月) 加藤明子(洋画) ※木田安彦(版画) 林 秀行(陶芸)
第18回(平成17年6月) 吉川 弘(日本画) 柳原睦夫(陶芸) 望月重延(漆芸)
第19回(平成18年6月) 西野陽一(日本画) 宮瀬富之(彫刻) 上野真知子(ファイバーアート)
第20回(平成19年6月) ※入江西一郎(日本画) 平岡靖弘(洋画) 井隼慶人(染色)
第21回(平成20年6月) 木村秀樹(版画) 秋山 陽(陶芸) 松本ヒデオ(陶芸)
第22回(平成21年6月) 三橋 遵(染色) 八木 明(陶芸) 甲斐扶佐義(写真)
第23回(平成22年6月) 西久松吉雄(日本画) 野村 仁(マルチメディアアート) 田島征彦(染色)
第24回(平成23年6月) 山本容子(版画) 小林尚美(ファイバーアート) 森村泰昌(現代美術)
第25回(平成24年5月) 川村悦子(洋画) 福本潮子(染色) 伊部京子(ファイバーアート)
第26回(平成25年5月) 麻田脩二(染色) 清水六兵衛(陶芸) 川瀬敏郎(花人)
第27回(平成26年5月) 畠中光享(日本画) 西野康造(彫刻) 生田丹代子(ガラス造形)
第28回(平成27年5月) 浅野 均(日本画) 今村 源(彫刻) 久保田繁雄(ファイバーアート)
第29回(平成28年5月) 森田りえ子(日本画) 松井利夫(陶芸) ヤノベケンジ(現代美術)
第30回(平成29年5月) 箱崎睦昌(日本画) 山部泰司(洋画) やなぎみわ(現代美術)

※は故人

絵画 35名(日本画18名 洋画11名 版画6名)
彫刻 12名
工芸 32名(染色11名 陶芸15名 漆芸3名 截金1名 人形1名 ガラス造形1名)
その他 11名(写真2名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名
現代美術3名 花人1名)
計 90名